



左から和知さん、高柳委員、廣木委員

# がんばる Farmer 応援記

Vol.8

このコーナーは、町内でがんばっているまたはがんばろうと考えている農家を支援する農業委員の活動を紹介します。

地区担当農業委員

廣木 文雄 委員

沼野井

和知 正浩 さん  
(23歳)

今回は、宇都宮大学（農学部生物生産科学科）で主に植物生産学を学んで就農した、沼野井の和知正浩さんをご紹介します。

▼初めに、和知さんのお宅の営農状況を教えてください。

【正浩さん】 水稲を6.4ha作付しています。また、生産調整の2.5haで飼料米、スナップエンドウとスプレーマム（菊）を生産しています。

米や菊はJAに出荷していますが、スナップエンドウは直売所に出荷しています。

▼就農のきっかけを教えてください。

【正浩さん】 大学卒業が目前に迫った昨年2月末、突然父が他界したため、大学卒業と同時に就農しました。

幼い頃から、田植えや稲刈り等、父の農作業を手伝ってきたが、技術を習得するまでにはなっていない中で就農でした。何もわからない中で就農でし

▼不安いっぱいの中での就農だったと思いますが・・・。

【正浩さん】 昔から、種蒔きや田植え、稲刈り等には亡き父の妹家族等の親戚が総出で応援に駆け付けてくれていましたので、とても心強いです。また、米のことは地域の方やJAの営農指導員、菊のことはJAの花弁部会の方といったように、周りの方々にとっても親切にしていたので農業ができていた状況です。とても感謝しています。

▼これからのような経営を考えられていますか。

【正浩さん】 まずは5、6年、経営が安定するまで現状を維持していきたいと思っています。そうした中で他の作物にも目を向け、自分に合った作物があれば積極的に経営に取り入れていきたいと思っています。

廣木委員のお宅では、大規模にいちご（とちおとめ）を栽培されていますので、今度ぜひ見学させてもらいたいです。

あと、一人で作業をしていると少し心細い時があります。一緒に農作業をしてくれる、天真爛漫な明るいお嫁さんを募集しています！

▼正浩さんに一言お願いします。

【廣木委員】 せっかく農業をやるのだから、自分が好きな物を栽培した方が絶対良いと思います。まずは経営の安定化を図ることが優先かと思いますが、その後、自分が好きな作物も経営に取り入れていけば、より良い経営ができると思います。

いちごハウスにはいつでも見学に来てください。

最後に、将来の所得安定のために、積立型の農業者年金への加入も検討してみてください。認定農業者や青色申告者等、要件を満たせば手厚い政策支援（保険料の国庫補助）が受けられます。

